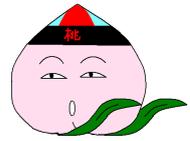


## News

字幕社ジャーナルの  
キャラクター、モモイーです。  
よろしく。



### ●事務所を移転しました

設立以来、杉並区桃井2丁目に事務所を構えておりました西ヶ原字幕社ですが、10月14日をもってこれを移転しました。とはいえ、同じく青梅街道沿い、旧事務所から500メートル駅に近づいただけですが。

新住所は下記。電話は従来どおりです。

〒167-0034 杉並区桃井1-3-4 唐沢ビル3F

ちなみに、韓国では引っ越しの時にジャージャー麺を食べる習慣があります。字幕社でも新宿から特別に出前を取り寄せ、久々の韓国気分を味わいました。写真はその時の様子。



唐沢ビル全景  
隣は八百屋さん

ジャージャー麺と共に



### ●夏季求人終わる

7回目の定期採用となります09年夏季求人が終了し、清水由希子が採用となりました。出版翻訳で実績のある清水が、映像翻訳の先輩である林原と朴澤に映像翻訳の極意を聞く座談会は本号2面に掲載。お楽しみに。

そうこうするうちに、年明けからは8回目の定期採用が始まります。予定では、従来どおりの定期採用は今回で最後となり、2010年度からはスクーリング修了後に成績優秀者をスタッフとして採用するやり方に移行します。詳しくは当社ホームページをご参照ください。<http://jimakusha.co.jp>

### ●朴澤、銀幕デビュー！

朴澤蓉子が字幕翻訳を担当したソン・スンホン主演の映画『あいつはカッコよかった』が9月26日からシネマート六本木ほかで公開になりました（現在は終了）。

05年の作品で、世間では入隊前のソン・スンホンが見られると注目を集めました。字幕社では、劇場公開映画デビューを果たした朴澤が注目を集めました。

### ●沖縄・字幕制作者養成講座に協力しています

沖縄県環金武湾地域雇用創造協議会が主催し、コミックリズ株式会社が運営する、字幕制作者養成講座の韓国語コースを、西ヶ原字幕社が担当することになり、沖縄県はうるま市で10月より週1回、全15回行われる講座に、講師を派遣しています。

これまでこうした講座を受け持てほしいという依頼はありましたが、思うところがありお断りしていました。しかし今回は、沖縄における新たな産業育成という趣旨に共感することもあり、また社内でもスクーリングのあり方を見直そうとしている時期でもあり、初めて社外に字幕社の翻訳スキルを伝授することになりました。期間中は担当者が不在になるなど、皆様にご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、ご容赦のほどをお願いすると共に、沖縄に字幕制作の拠点を作ろうとする試みに、関心をお寄せいただけますと幸いです。ホームページはこちら<http://comicritz.com/spot/>

次号のニュースレターでは特集を組んで、講座のレポートや受講生たちの声、あるいは今回初めて講師の依頼を受けることにした経緯などをお伝えできればと思います。お楽しみに。

# 座談会:Why? 映像翻訳

現役翻訳者に聞く、「私が映像翻訳にハマるわけ」

「映像翻訳に携わることになったきっかけは?」「映像翻訳の魅力は?」「どんな人が映像翻訳に向いてるの?」——そんな疑問に答えるべく、新たに字幕社の一員となった清水が、映像翻訳の先輩、林原と朴澤に聞きます。

## 映像翻訳の世界に入るまで

**清水:** 映像翻訳というと、かなり特殊な業界というイメージがあったのですが、お2人はどういうきっかけでこの世界に入られたのですか?

**林原:** 映像翻訳者の中には、映画なりテレビなりが好き、というところから映像翻訳に入った人も多いようですが、僕は実は、映像を見る習慣がない。親が厳しかったので、子供の頃あまりテレビを見せてもらえなかったからだと思いますけど。

**朴澤:** 私も映像先にありきではないですよ。「それで字幕をつけるとは、けしからん!」なんて怒られそうですけど(笑)。

**林原:** きっかけは大学時代に、先輩から「字幕のバイト、やってみない?」と紹介されて。字幕の基本ルールが書かれたプリント1枚を頼りに、見よう見まねで始めました。あの時は、まさか自分がこの仕事で食べていくなんで、夢にも思いませんでした。

**朴澤:** 私は中学生の頃から、英語の字幕翻訳者に憧れがあって。理由はもちろん、カッコいいから(笑)。大学の朝鮮語科に進んでからも、その思いは変わらず、映像翻訳のアルバイトを探しまくりました。

**林原:** それで、僕の出した求人広告を見て応募してくれたんですね。今ではもう、わか社になくてもならない存在です。

## 字幕の魅力

**清水:** 映像翻訳は好きでないと続かない仕事だとか。締切に追われる生活でも、この仕事がやめられない魅力は、どこにありますか?

**朴澤:** まず、普段の生活がぐんと楽しくなりました。翻訳者の目で眺めてみると、この世の中、発見の連続なんです。たとえば電車の中吊り広告も、友達とおしゃべりも、「ああ、こんな表現ができるんだ」と教えてくれる。

**林原:** 僕が喜びを感じるのは、字幕にせよ吹き替えにせよ、きちりロジカルに仕上がった時ですかね。「理屈美」とでも言いましょうか。要するに映像が好きなのではなく、映像翻訳という営みが好きなんだと思います。他の仕事では邪魔になるであろう、理屈っぽい性格が、この仕事ではアドバンテージになる。

**朴澤:** 私の場合、自分から何かを発信するより補佐役に回るほうが得意なので、翻訳者向きなのかもしれません。視聴者と作り手を仲介する役割ですから。

**清水:** たまに、パソコンの前で頭を抱えて「うおーっ」と叫んだりしてますけど(笑)、何と闘っているんですか?

**朴澤:** すばり、自分です(笑)。仲介役の宿命ですね。「字幕の分かりやすさ」と「原作への忠実度」、どちらも妥協したくないので、その狭間でさえ苦しむわけです。でも、追い詰められてる自分も、結構好きなんですヨ。成長痛みたいなものですし(笑)。

## 出版翻訳との違い

**林原:** 清水さんは、2ヶ月ほど字幕翻訳をしてみて、本の仕事との違いを感じましたか?

**清水:** まったく別物ですね。本の場合は1冊まるごと訳しますが、字幕翻訳は、ハコ(字幕1枚のスペース)というパーツを作っては、組み合わせる作業の積み重ねですから。

**朴澤:** 字数制限にも戸惑ったでしょう?

**清水:** 初めは、「たった5文字でどうしろてんだい!」とか、内心、毒ついてました(笑)。でもそのうち、俳句を詠んでみたいだな、と。

**林原:** そうそう、国語のテストとかね。

**清水:** 字数制限に悩まされながら、これだという言葉を探り当てた時や、ハコ同士が絶妙に組み合わせさせた時の快感は、やみつきになりそうです。まだまだ駆け出しなので、数えるほどしか味わえていませんが(笑)。

## 映像翻訳者の適性

**清水:** 西ヶ原字幕社は、個性派ぞろいで楽しいですね。どんなタイプの方が、映像翻訳向きなんでしょうか?

**朴澤:** クリエイターではなく、あくまでサービス業なので、素直で謙虚な人がいいと思います。自分の言語感覚が絶対だと思込んでいるようでは、不特定多数の視聴者が満足する字幕はつけられませんから。

**林原:** あとは、人間的に面白い人かな。所詮、映像翻訳はエンターテインメントですから。同時に、制作現場では韓国通として頼られる立場なので、知識人としての顔も必要ですね。



座談会は今後もテーマを変えて続きます。お楽しみに。

## Essay

## 韓流の周辺で

山岸由佳

日本で放送されている某韓国芸能情報番組のディレクターとして、08年秋まで私は現地ソウルで取材活動・番組制作をしてきた。番組開始当時は“韓流”という言葉さえまだ日本に存在していなかったし、ネット上でも日本語に翻訳された韓国芸能情報はほとんどなかった。激動の韓流創成期を過ごしてきた私の個人的な思い出を語らせてもらう。(この企画、果たしてシリーズ化されるか!?)

一番新しい思い出は“ソン・スンホンのバイク”！ 韓国映画『宿命』でソン・スンホンが乗っていたバイクをご記憶だろうか？ あれ、一時は私の物だった。映画のプロモーションイベントのひとつ、ネットオークションで落札したのだ。最初は取材アイテムとして見ていたのだが、せっかくだからと一度入札してみたら何だか楽しくなってきて、最後には本気で落札を目指していた。金額は日本円にすると約10万円。収益は消失した南大門の復興募金に寄付されるという点も気に入った。

贈呈式イベントに出席し、スンホン氏から直々にサイン入りヘルメットを受け取った。会場に来ていた現場中間のカメラマンたちが「あれ〜？何やってんの〜？」と笑いながら写真を撮ってく

れた。

後日バイクが届いたが、実はバイクの免許を持っていない。駐車した位置から動かすこともできない。困った。ということで教習所へ通うことに。「あの日本人女性はなぜ故に二種小型（韓国でバイクを運転する免許の種類）を？」と周囲に不思議がられながら早朝2時間、実技教習を受けてから出勤する日々。そして1ヶ月ほどで卒検に合格し、その日の合格者たちで「今度、ツーリングへ」と盛り上がった。ちなみのその教習所には私が通う直前まで、俳優パク・コニョンが二種小型で通っていたという。惜しい…、バイク仲間になれたのに…。

あっという間に原稿の字数が埋まってしまったため、その後のスンホン・バイクの行方を知りたい方は山岸まで！



これが噂の  
スンホン・バイク

## 語基（ごき）プリと呼ばれて

林原圭吾

皆さんは、韓国語の文法に2種類の考え方があるのをご存知でしょうか。

ひとつは、韓国人が考える韓国語の文法。延世大学の語学堂をはじめ、韓国国内の教育機関で行われる授業、および日本の大半の教育機関で行われる韓国語の授業が、これに従って進められます。もうひとつが、日本の東京外国語大学朝鮮語学科、およびその信奉者が教鞭をとるごく一部の教育機関で教えられている文法。用言を活用させる「語基（ごき）」という概念が特徴的で、その信奉者たちは「語基プリ」などと揶揄されます。何を隠そう筆者もこの語基で韓国語を習っております。多数決でも採ろうものなら、ちりのように吹き飛ばされてしまいそうな語基ですが、どっこい、こいつも捨てたものじゃないと思うことが多々あります。このコーナーでは、実際の誤訳の例を用いて、語基プリたちの頭の中を解説します。なお、韓国語講座ではありませんので、なじみのない人にはチンプンカンプンだと思いますが、ご容赦を。

(例1) 고3 때 너랑 같은 반 됐을 때, 너 엄청 나 불편해 했잖아?

(X) 高3で同じクラスになった時、あなたとても私を気まずくさせたじゃない

(O) 高3で同じクラスになった時、あなたとても私を気まずくさせたじゃない

これは語基プリならまずしない間違いです。(A) 불편해 하다 (B) 불편하게 하다 のふたつを混同しているわけですが、(A)は 불편하다の第Ⅲ語基 불편해에補助動詞하다がついた形、すなわち形容詞の第Ⅲ語基+하다で、形容詞が動詞化したもの。좋다(良い)の第Ⅲ語基 좋아에하다がついた「좋아하다(好く)」、아쉽다(惜しい)の第Ⅲ語基 아쉬워에하다がついた「아쉬워하다(惜しむ)」と同じです。(B)は 불편하다の第Ⅰ語基 불편하에に用言語尾の게がつき、動詞하다がついた、「AをBの状態にする」という構文。活用も違えば要素の数も違います。

ちなみに第Ⅲ語基+하다は、多くの場合他動詞になります。例えば이별이 아쉽다(別れが惜しい)→이별을 아쉬워하다(別れを惜しむ)。ということは、主語や目的語が求められる。以前、韓流イベントに参加した日本人女性がインタビューを受け、「저는 이병헌씨가 좋아합니다」と言っていました。おそらく「私はイ・ビョンホンさんが好きです」という日本語を置き換えたのでしょうか、これでは動詞「좋아하다(好く)」の主語はイ・ビョンホンになり、「私はイ・ビョンホンさんに好かれている女です」みたいな意味になってしまいます。正しくは「저는 이병헌씨가 좋습니다」あるいは「저는 이병헌씨를 좋아합니다」。このような行為の主体や方向なども、語基で勉強している人が敏感な部分です。

## 西ヶ原連礼②地蔵通り商店街

「ファイト餃子」に行くには、巢鴨駅から地蔵通り商店街を抜けて、都電荒川線の庚申塚駅に出るのが最短である。地蔵通り商店街と言えば、言わずと知れた「おばあちゃん原宿」と。げぬき地蔵で知られる高岩寺を中心に、乾物屋や和菓子屋、洋品店など渋いお店が800メートルにわたり軒を連ねる、巢鴨で最もにぎやかなスポットだ。

そんな中でひととき目を引くのが、赤下着で有名な衣料品「マルジ」。年の瀬でもあり、来年の干支である牛を絵柄にした赤靴下が売られていて、筆者も年女の妻に一足購入。妻は冬用のパジャマを千円で購入。暖かそうな綿素材で国産、いい買い物だと喜んでた。

筆者の思い出の場所と言えば「ときわ食堂」である。広い土間に仕切りもなく並べられた白テーブルという、典型的な昭和の大衆食堂で、学生の時分よく通ったものだ。日替わり定食が450円くらいだったか。それから十数年後の再会。店構えはおしゃれになり、内装も大戸屋を思わせる、今風なインテリアになっていた。しかし、値段は今なお安い。野菜炒めや焼き魚でビールを飲みたい気持ちをぐっと抑えて、先を急ぐ。

現役の路面電車、都電荒川線の線路を渡ると、程なく右手に見えてきた。「ファイト餃子」である。(続く)



衣料店マルジ ときわ食堂  
写真は09年夏撮影



### 編集後記

10年ぶりの健康診断で、血中脂質の値が高いと言われた。健康や食生活には気を使っているつもりだったが、根っからの貧乏性で、おかわり自由や大盛り無料の店を愛用。翻訳をひと段落させてからと思うと、食事時を逃してラーメン屋に駆け込む。今思うと、結構体にひどいことをしてきた。来年はラーメン断ちをして、いざりベンジ。【編集長代理】

※「モモイ」について

ゆるキャラブームにあやかり、字幕社ジャーナルのキャラクターを募集したところ、事務所の住所が杉並区桃井であることから、名前に先行で誕生しました。顔は中国のお面をイメージしています。

## スタッフ・フキインタビュー

唐澤洋子 (08年10月入社 長野県出身)

■字幕社のホームページの管理人も務める唐澤さん、パソコンのスキルはどこで身につけた？

これまでの仕事で、少しずつ新しいものを吸収したという感じです。東京に出てきて勤めた出版社で、伝票管理をしたんですが、そこで伝票を集計するシステムを自分で組みました。当時のパソコンはまだDOSで、「桐」というソフトを使ってました。その時に目覚めましたね。

■自分でシステムを組むところが、すごい。

手で書くのが面倒だったんですよ。伝票の数も多かったし。それで自分が楽をしようと。怠け者なので。

■発想が理系っぽい。

クラスは文系でしたけど、数字は嫌いじゃないです。目指す答えにたどりつくとスッキリします。その点、翻訳は答えが決まっているわけではないので、「これでいいのか」というモヤモヤ感がついて回ります。

■ホームページとの関わりは？

社労士事務所に勤めていた時、前任者が作っていたページがトホホで、ちょうどパソコンにホームページ作成のソフトも入っていたので、自分でやってみたところ、面白かったのがきっかけです。いたずらで隠しページを作ったり。

■字幕社のホームページ、今後の計画は？

いろいろリニューアルをしたいけど、翻訳と並行なので、なかなかまとまった時間がとれません。会社のイメージに合った、シンプルだけどセンスのいいデザインにしたいですが、その分自分へのハードルが高くなりますね。会社が今後、新しいことに取り組む時に、窓口になるのがホームページなので、そういう役割も果たしていけたらと思います。

W 羊元 現在の料金 (@映像10分)

字幕翻訳	吹き替え翻訳
15,000~18,000円	22,000~25,000円

※詳しくはホームページの料金表をご覧ください